

## 人類共同体思想の世界史的意義

坂中英徳

日本人は地球人に成長しなければならない

平成の日本は、世界の歴史にも例のない「人口崩壊」という国家存亡の危機に直面している。人口秩序の崩壊は国家国民の消滅につながりかねない重大危機である。それに対処するのに中途半端な改革をいくらやっても焼け石に水である。今日の日本には、国の形と国民の生き方を根本的に改める移民革命と社会革命が必要だ。

私は、人口秩序を正すのに必要な1千万人の移民を入れなければ、日本の全面崩壊は免れないと国民に訴え続けている。

内閣総理大臣には日本の生存をかけた千年に一回の歴史的決断をお願いする。憂国の心がある国民には日本の壊滅的危機を乗り越えるうえで不可欠の清貧生活に耐えてもらいたい。

人口体系が壊れる民族的危機に臨み、平成時代の日本人が新しい国家国民の歴史をつくるのだ。国境の門を世界の有為の人材に開放し、人口ピラミッドを正常な形に立て直し、移民国家で世界の頂点をめざすのだ。

世界をリードする移民国家の理想像を完成するまでには50年ないし100年の年月を要する。それは日本人の内なる敵との闘いでもある。国民は心にしみこんだ島国根性を克服し、移民を正しく迎える地球人に成長しなければならない。

日本人が生き残りをかけて人類共同体社会を樹立すれば、日本は地球社会に生きる人々が永住の地と憧れる移民モデル国になるであろう。地球文明における日本文明の存在理由は一段と高まるであろう。

日本文化は移民をひきつける原動力

大相撲、歌舞伎、宝塚歌劇、京都祇園、金閣寺、奈良東大寺、鎌倉の大仏、伊勢神宮、出雲大社、皇居、銀座・浅草・秋葉原、長野の善光寺、高山祭り、白川郷・五箇山の合掌造り集落、青森のねぶた、博多祇園山笠、徳島の阿波踊り、札幌の雪祭り、東北の温泉郷、沖縄のサンゴ礁の海、大阪城公園、道頓堀、姫路城、名古屋城、富士山、阿蘇山などは外国人が憧れる観光資源である。日本の有形・無形の文化財は一時滞在者の外国人観光客のみならず永住外国人の移民を日本にひきつける原動力になると考えている。

以上は、私が思いつくままに列挙した伝統文化と観光の名勝である。日本の宝であるこれらの文化財と天然記念物を守る人的資源の確保を真剣に考える必要がある。超少子化で後継者難が急激に進むから、日本の若者だけで日本文化の維持・発展はかなわない。日本文化が大好きな世界の若者のなかから日本の伝統を引き継ぐ人材を育成すれば後継者問題の

解決のめどが立つだろう。

法務省にお願いがある。日本の伝統工芸・伝統芸能の技能を継承する外国人を移民として迎えるため、「伝統工芸技能」の在留資格を新設してほしい。

大相撲における外国人力士の圧倒的な存在感からも明らかなように、日本の伝統と文化を受け継いで後世へ伝える人は何も日本人に限られるわけではない。アニメ、文学、墨絵、歌舞伎、落語、伝統工芸、武道など、日本の文化に憧れる若者は世界中にごまんという。なかには日本の若者よりも日本文化の精髓を理解している外国人もいる。

時代が変わり、いまや日本文化は「日本人がひとりじめするもの」ではなく、「世界の人のびとのもの」になったことを認めなければならない。アニメに代表される日本文化は世界の若者に深い感動を与える普遍的価値のあるものに発展した。

モンゴル出身の大横綱もいい。青い目の芸者もいい。アジアの美女がそろそろ宝塚歌劇もいい。世界各国からやってきた青年が博多祇園山笠でみこしを担ぐのもいい。色とりどりの民族衣装に身を包んだ若者が阿波踊りやねぶた祭りで踊り狂うのもいい。

みこし担いだり、踊ったりしている地球人たちが、各民族の心が溶け合って一つになる至福の境地にひたっている光景を想像するのは楽しい。その時一瞬ではあるが、みんなの心に人類同胞意識が生じるのではないか。

世界中の人々を魅了するクールジャパンや里山・棚田などの自然景観は全国いたるところにある。世界各国の老若男女を日本に引き寄せる文化遺産や自然遺産を発掘し、世界に発信しよう。その一翼を在日外国人に担ってもらってはどうか。外国人ならではの視点で日本美や日本人の心を発見し、世界各国に広報してくれるだろう。

なお付言すれば、日本古来の伝統文化といわれているものも、いわゆる「純粋文化」というわけではない。日本の伝統文化も、そのオリジンまでさかのぼると、仏教、漢字、雅楽などがそうであるように、世界各地から渡来した異文化の影響を強く受けている。先祖代々の日本人がそれを的確に取捨選択したうえで取り入れ、より洗練され精緻なものに磨き上げた、いわゆる「雑種文化」の典型である。そのような意味で日本文化は雑種文化の優等生であると言っていい。

#### 国際結婚があたりまえの時代

多民族社会において各民族間の平和友好関係を確立する最も有効な方法のひとつは、異なる民族間で婚姻関係を積み重ねていくこと、血縁関係を深めていくことだと考えている。

現代の日本人の外国人観を見ると、大量の異民族の流入も外敵の侵入も受けなかった歴史も幸いして、他の民族を「人間以下のもの」とみなす観念はない。外国人に対する恐怖心も排外的感情も希薄である。

むしろ、人種・民族に甲乙も優劣もないと考える日本人の心には、欧米諸国で見られるような根深い人種差別もない。何より外国人を懐に温かく迎える心がある。

たとえば、国際結婚について見ると、在日韓国・朝鮮人の結婚相手の約90%が日本人であることが如実に示すとおり、人種・民族・国籍の異なる人と結ばれる日本人が比較的多い。

宗教についても、日本人は仏教やキリスト教など異国の神様を進んで受け入れた珍しい民族である。今も日本の至る所で八百よろずの神がみが共存している。多神教の日本は移民の受け入れに最適の国といえるのではないか。

移民の入国の扉を開けば、世界のいたるところから美男美女、善男善女が日本に移住してくる。結果、日本の若者と世界の若者の結婚が爆発的に増える。魅力的な混血児が続々誕生する。やがて少子化に歯止めがかかる。国際結婚があたりまえの時代を想像すると私の胸が躍る。

### 在日コリアンと共生する日本人は多民族共生社会をつくれる

千年以上も移民鎖国が続いた日本は移民の受け入れに適さないという見方が一部にある。

私はそのような考えに異議がある。在日韓国・朝鮮人問題と格闘した経験から、日本社会には異なる民族を受容する土壌があり、日本人には移民を受け入れる潜在能力があると考えている。

現在、日本人と在日コリアンが友人関係・信頼関係を確立していることが、その何よりの証拠である。

法務省入国管理局の行政官時代、在日コリアンの法的地位問題に正面から取り組んだが、一筋縄ではいかず、苦闘の連続であった。在日韓国・朝鮮人の日本への移住は日本の朝鮮半島植民地支配に由来するという歴史的経緯もあって、戦後、在日コリアンと日本人の関係は冷戦の時代が続いた。

しかし、2000年代に入ると状況が一変した。在日韓国・朝鮮人の結婚相手の9割が日本人であることに象徴されるように、日本人と在日コリアンの関係は緊張が解けて平和の時代を迎えた。

私は1970年代後半から、在日コリアンと日本人との間の婚姻状況の推移は両者の和解のバロメーターであると考えていた。

1977年に発表した論文(「在日朝鮮人の処遇」)において、在日コリアンと日本人の結婚の増加と彼らの子供に注目し、「在日朝鮮人は血縁的にも日本人との関係を深めてきており、このままの趨勢が続けば、数世代を経ないうちに在日朝鮮人の大半が日本人との血縁関係を有する者になることが予想される」と述べた。

その後の在日コリアンと日本人の結婚の増加と血縁関係の深まりは、私の予想をはるかに上回るものだった。

戦後の在日韓国・朝鮮人と日本人との関係史、すなわち、当初は厳しい対立関係にあった二つの民族が、婚姻関係の広がりを通してその関係が劇的に改善された70年の歴史は、

来るべき移民時代において多民族共生のモデルとして語り継がれることになる。

在日コリアンとの深いかかわりの歴史を鏡とし、日本人がニューカマーの移民と向かい合えば、日本人と移民が良好な関係を結ぶ「多民族共生社会」を創れるであろう。

在日コリアン問題を解決した日本人は移民を上手に受け入れる

今日、経済界、スポーツ界、芸能界などを見渡すと、在日コリアンの活躍が目立つ。医師、弁護士、公認会計士など専門職に従事する人も多い。

歌謡の世界は在日コリアンの存在を抜きにしては語れない。ソフトバンクの創始者の孫正義氏を筆頭に起業家が続出した。焼肉やキムチが日本人の好きな食べ物になったのも朝鮮半島出身者がいたからこそだ。

私たち日本人は、戦後日本に残った65万人の在日韓国・朝鮮人とその子孫が、日本の社会・経済・文化の発展に貢献したことを忘れてはならない。在日韓国・朝鮮人は日本社会に彩を添え、活力をもたらした。もし彼らがいなかったなら、先祖代々の日本人が社会の成員のほぼ100%を占める、淡彩画のおもしろみに欠ける社会になっていたと思う。

もう一つ、言っておきたいことがある。日本人の歴史認識が厳しく問われるとともに在日韓国・朝鮮人の民族的アイデンティティがからむ、困難きわまる少数民族問題を解決の方向に導いた経験は、移民を大規模に受け入れる場合の日本人の自信につながるであろう。

私は在日コリアン問題の解決に全身全霊を傾けたことを生涯の誇りとする。一国からのわずか65万人の移民がこれだけ大きな仕事をやってのけた実績を鑑みると、全世界から1000万人の移民を迎えると、そのなかからどんな偉才が現れるのか、どんな偉業を達成してくれるのか、期待に胸がふくらむ。

国家目標としての人類共同体社会の実現

民族・文化・宗教・言語の異なる人と人との平和共存への道は決して平坦ではない。世界の諸民族の共存共栄は人類の永遠の課題なのかもしれない。

一般論をいえば、自らの民族と文化に誇りを持たない国民は異なる民族と文化に寛容になれないものだ。外国人はそのような国民に敬意を表さない。

日本が移民の受け入れで成功をおさめるためには、日本人と他の民族が互いの立場を尊重し合って生きる社会、すなわち多民族共生社会をつくる必要がある。

そのとき日本人に求められるのは、日本人としての民族的アイデンティティを確認するとともに、異なる民族を対等の存在と認めることだ。日本民族の根本精神を堅持するとともに、ほかの民族の固有文化を尊重しなければならない。

世界の諸民族が永住したいと憧れる国は、日本人が日本人としての誇りを持ち、移民が移民としての誇りを持てる社会だ。

わたしは、日本の国家目標として、世界のどの民族もいまだ成し遂げていない人類共同体社会の創造を掲げている。先祖代々の日本人のほか、地球上のさまざまな民族が日本国民として一つにまとまる社会だ。日本人と移民が一致協力して多民族融和社会を作り上げれば、日本人と移民が和気あいあいと過ごす日本は移民受け入れの手本となるであろう。

多彩な顔を持つ日本人は人類共同体のゴールをみざす

「日本人は百年かけて雑種系民族に変わらなければならない」と、私はつとに主張している。移民二世のオバマ米大統領が2009年1月の就任直後、ホワイトハウスで飼っている犬の血統を記者から尋ねられて、「この犬は雑種。私も雑種」と述べたことを鮮明に記憶している。含蓄のある言葉に感動した。

千年以上の長きにわたって移民鎖国の時代が続き、日本人は島国の中でいわば血縁者同士の緊密な関係を結んで生きてきた。その結果、世界的に見て、日本人は純血度の高い民族になった。島国根性のかたまりの視野の狭い民族になったことは否めない。

世界は地球時代に入った。日本人だけで政治・経済・社会・教育を運営する体制の限界が見えてきた。世界的な視野から客観的に物事を見ることが苦手な純種系民族の弱みが日本社会の各方面に出てきたのだ。

日本が移民立国を国是とする国になり、世界の民族を網羅した1000万人の移民が将来の国民に加わると、多彩な顔を持つ国民が国家を構成する多民族国家に変わる。異邦人や毛色が変わった人が縦横無尽の活躍をする「多士済々の社会」の誕生である。

言語や文化にかぎらず、外交力、創造力、発想力、国際競争力、都市の魅力その他あらゆる面で、国民を構成する民族の多様性はプラスに働くと考えている。

たとえば、世界を多極的・大局的に見ることのできる多民族国家のほうが、一面的・近視眼的に見るきらいのある単一民族国家よりも、修羅場の世界で列強と対峙する場合の外交能力でまさるのではないか。

十人に一人が外国出身者の多民族国家になれば、それぞれの民族の持つエネルギーがぶつかり、それらがまじり合って新たな国民エネルギーが発生するだろう。新エネルギーを取り入れて体質が強化された日本人は世界の人々と五分にわたりあえるだろう。のみならず、個性あふれる日本人、独創的な日本人、世界に雄飛する日本人が続出するであろう。

私は、パワフルな日本国民が人類の夢である地球共同体のゴールをめざして力強く前進する百年後の日本に思いをはせている。

移民革命思想・人類共同体思想・世界平和思想

私が唱える人類共同体の理念は人口危機の日本の生き残りがかかる移民政策というだけでない。地球上の諸民族の融和ひいては戦争のない世界をめざす平和哲学でもある。

近年、世界の慧眼の士が坂中英徳の移民政策論に関心を寄せている。なかでも移民政策と人類共同体思想と世界平和哲学を一体のものとして関係づけて論じている箇所注目集まっている。

最新論文の「日本の移民国家ビジョン——人類共同体の創成に挑む」(『新版 日本型移民国家への道』(東信堂、2014年)所収の論文)のなかで、次のような大胆な仮説を立てた。

〈日本の移民政策は、人口危機に瀕した日本を再生させる国家政策にとどまらない。地球上の諸民族が和の心で平和共存する世界を希求する世界政策でもある。日本の移民革命思想は、日本のみならず世界各国に根本的変革を迫り、すべての民族の共存共栄と世界平和に貢献し、国境を越えて人類の一体化が進むグローバル時代に生きる地球人への最高の贈物になるだろう。〉

地球規模での平和の実現は夢のまた夢の段階にある。だが、民族・宗教対立に起因する世界戦争の脅威が現実味を帯びている今日、日本の精神風土から生まれた人類共同体の理念と世界平和哲学を世界に向けて発信することは大きな意味があると思う。

日本精神の根底には万物平等思想がインプットされている。八百万の神々を受け入れ、地球上に存在するすべての人種・民族はみな平等であると考え日本人なら、世界の先頭を切って、すべての民族が和の心で共存する小宇宙を築けるのではないかと考えている。

わたしは日本人の立てた移民国家理念が世界平和を牽引する夢を追いかける。近未来のいつの日か、日本発の移民革命思想が世界の人々を平和に導く星として世界に煌く時代が訪れると信ずる。

#### 人類共同体思想の世界史的意義

わたしは人口崩壊の危機が迫る日本を救いたい一心で人類共同体の樹立を目標とする移民国家の理想像を描いた。日本列島のなかで世界の諸民族が仲よく暮らすユートピア世界である。

2014年に入って移民国家をめぐる議論が活発化した。坂中移民国家論の精髓というべき人類共同体論に注目する日本の知識人は皆無である。世界一を目指す移民国家ビジョンは夢物語に過ぎないと受け流されたのだろう。

移民に寄せる日本人の感情が好転し、国民が移民と共に生きることの喜びを見いだすようになるまでには相当の年月を要すると覚悟している。さりながら、時間はかかっても、賢明な国民は移民を温かく迎え入れ、多民族共生社会を築くであろうと確信している。

日本人の教養レベルは世界の最高水準にあると言っても過言ではない。八百万の神がみを受け入れる日本人は、地球上のどの民族よりも広い心で移民を迎える素質があると理解

している。

突然であるが話は近未来に飛躍する。もとよりこれは私の願望にすぎないが、100年後の日本人は世界の先頭を切って人類共同体社会を創造している。日本で生まれ成長した移民国家理念と平和哲学は世界の識者の通念となっている。

私の親友に敬虔なイスラム教徒がいる。27年前に難民として日本に来たパキスタン人である。いま、東日本大震災の被災地に家族ともども移住し、支援活動に熱心に取り組んでいる。彼は多数の被災者の尊敬を集めている。

そのパキスタン人は坂中の移民革命思想の信奉者である。2013年2月、彼を激励するため宮城県の被災地を訪れた際に、彼は「人類共同体思想の世界史的意義」を強調し、それは「アニミズムの世界観が根底にある坂中さんのユニークな発想のたまもの」と指摘した。そのうえで、坂中構想の将来を予言した。

〈坂中さんの人類共同体構想は世界平和に貢献する。神の加護があるので近未来の地球社会で人類共同体社会が実現している。坂中さんは世界の救世主になる。〉

信仰心の厚いイスラム教徒が真剣な顔で「坂中英徳は世界の救世主」と熱弁を振るうのを聞いてびっくりした。異国の神の助けがあって百年後には坂中構想が具体化しており、世界平和が現実のものになっているという。

在日パキスタン人の予言が適中するかどうかは不透明であるが、平和を願う心が人類のDNAに組み込まれていることは確かである。